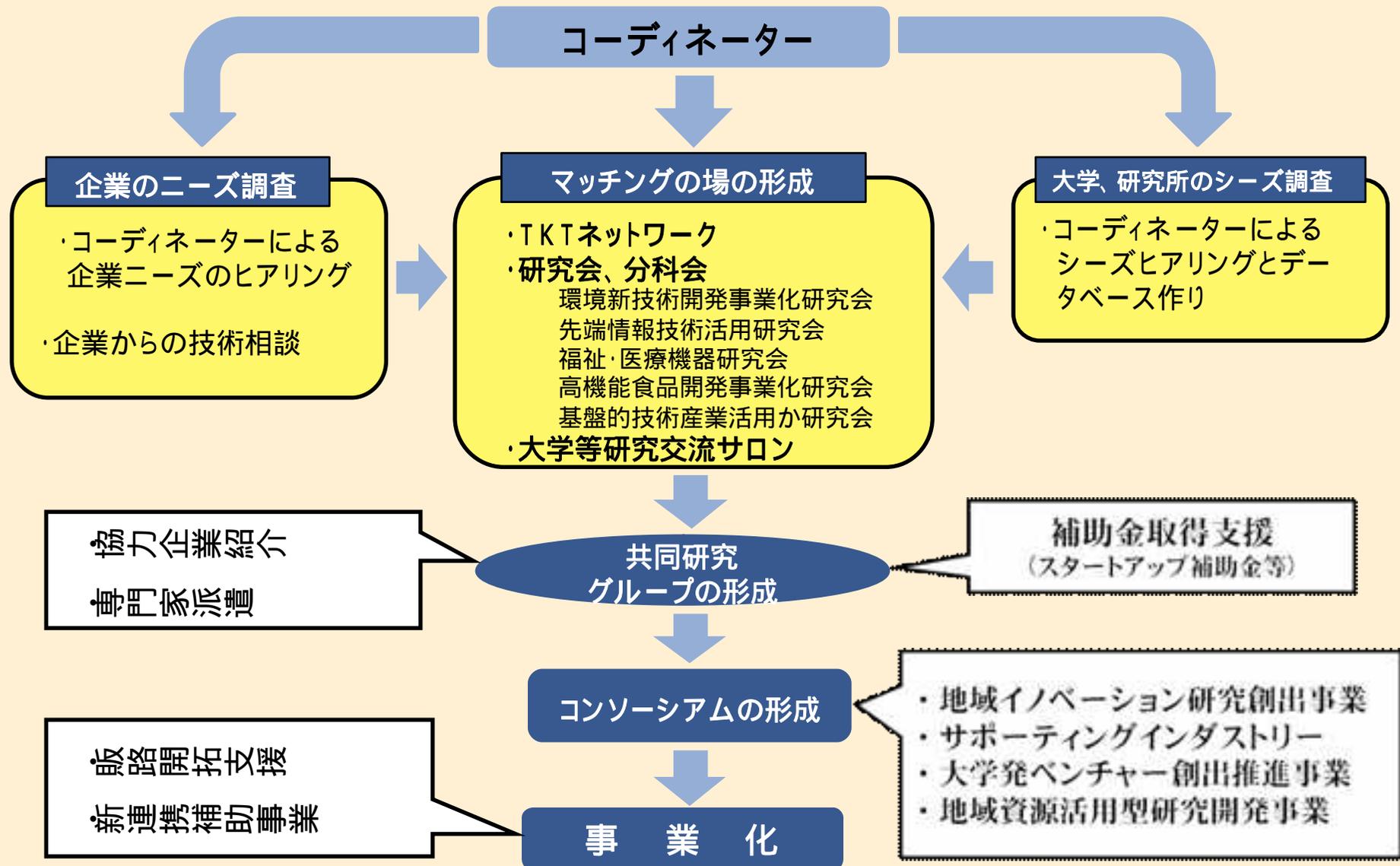


第8回産学官連携推進会議 分科会

「元気な大学・中小企業・ベンチャーが牽引する地域活性化」

財団法人千葉県産業振興センター
理事長 飯田 耕一

産学官連携コーディネート活動



技術シーズの翻訳・データベース化から研究成果実用化交流会

翻訳・データベース化

- ・技術の高度化や新技術・新製品の創出を支援するため、常に重点分野や発展分野に関する最先端のつくばに集積する研究・技術シーズを発掘し、中小企業において最終製品をイメージしやすいよう翻訳・データベース化
- ・累積約70件の技術をデータベースにて管理 H21年度は30件追加予定

研究成果実用化交流会

- ・独立行政法人産業技術総合研究所・独立行政法人理化学研究所等の研究者とコーディネーターを介した企業との技術交流会
- ・中小企業が研究機関に対して感じている距離感を解消するため、当ネットワークのコーディネーターが事前に活用しやすく翻訳された技術情報を持って企業を訪問・調整するなど、丁寧なマッチング体制
- ・H20年度は、表面改質/理化学機器/微細加工の3分野合計9テーマの発表

事業化フォローアップ

- ・研究成果実用化交流会終了後も、個別相談・研究室訪問など事業化に至るまでコーディネーターがフォローアップ

大企業との連携事業 ~ 産産マッチング ~

マッチング

技術仲介業者を介して、大企業からの具体的な開発ニーズに対し、当ネットワーク会員企業の技術シーズをマッチング

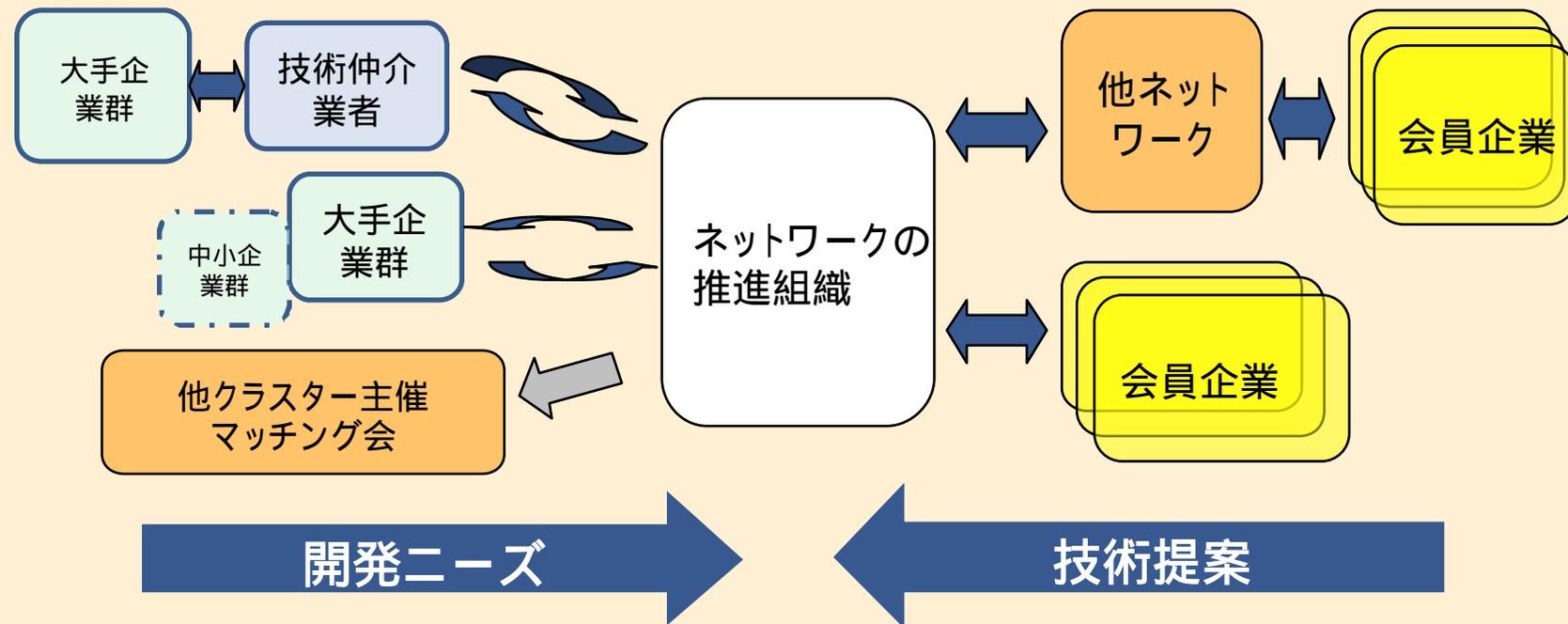
マッチング

会員企業が大手企業に出向いてのマッチング会・個別マッチングを随時実施

マッチング

他クラスター主催のマッチング会への参加支援(提案内容のブラッシュアップ等)

< 連携イメージ >



産学官連携の実効をあげるには

企業

- 1 やりたい内容・事業を明確に
- 2 大学の事情に対する思いやり(学生テーマ設定時期との調整)
- 3 必要ならば人も派遣して実験する(丸投げは禁物)
- 4 必要な費用は負担する
- 5 社長の推進力

明確な契約

内容・分担・スケジュール・知財権・守秘・発表・費用

支援機関の協力

大学

- 1 地域産業へ貢献の精神
- 2 スピードアップの努力
- 3 知財権対応を明確に
- 4 特許を抑えてからの発表
- 5 守秘義務厳守

担当者を決めて密な連絡・打合せ

全国イノベーション推進機関ネットワークの発足

【全国規模の対応が必要な課題】

(1) コーディネーター(CD)～産学連携の成否はコーディネート活動にある～

CD人材が見つけない
専門分野を超えて多様な支援が出来るCDが少ない
雇用期間等身分が不安定



CD人材育成システムの確立
CDの派遣・斡旋制度の確立
CDの社会的地位の確立

(2) ニーズ・シーズのマッチング

大学・研究機関のシーズ把握が地域に偏りがち
マッチングを限られた範囲内で行っており、広域的な広がり欠ける



大学・研究機関等が持つシーズ情報の
広域的活用方法の構築
域外情報交換の場の設定

(3) 販路開拓

国内・海外も含め広域的な販路支援が不十分
海外展開のノウハウが不足している



国内外での合同商談会、合同展示会の
実施
海外展開に必要な情報収集活動の実施

全国イノベーション推進機関ネットワークの発足

【全国イノベーション推進機関ネットワーク】

(1) 目的

地域発のイノベーションの推進を担う支援機関が、支援機関相互の情報共有、交流促進及び共通課題の解決に向けた活動を行い、産学連携・産産連携を促進、各地域間の連携の強化を図り地域イノベーションの発展を図る。

(2) メンバー

各地域のイノベーション推進を担う機関を会員として、(独)科学技術振興機構、(独)産業技術総合研究所、(独)日本貿易振興機構、(独)中小企業基盤整備機構、(財)日本立地センターが助言、支援を行う幹事機関として参加。

(3) 主な事業

- イノベーション創出促進人材活用事業
- ・人材育成システムの構築
- ・支援人材認証システムの構築
- ・支援人材マッチングシステムの構築
- ・支援人材顕彰制度の構築
- 大学・公設試等の研究成果の地域企業への移転促進事業
- ・研究成果の事業化に向けての翻訳と普及
- ・研究開発成果データベースの構築
- ・研究成果マッチング研究交流会の開催
- 販路開拓
- ・商談会、展示会の活用ノウハウの提供
- ・海外展開に必要な情報提供、海外支援機関との交流